

令和6年度事業報告

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年 4月 1日	布施高等女学校開校
22年 4月 1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年 4月 1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年 2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年 3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年 4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年 4月 1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年 1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年 1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年 1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年 4月 1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年 4月 1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年 2月 9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年 4月 1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年 4月 1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年 3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年 7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年 3月 1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年 3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年 5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年 4月 1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年 1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年 4月 1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年 4月 1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更

家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止

19年 3月31日 家政学科生活デザイン専攻廃止届出

22年 3月31日 東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止

22年 4月 1日 健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止

23年 3月31日 健康栄養学科生活福祉専攻廃止

23年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科開設

28年 4月 1日 東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更

30年 4月 1日 東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設

令和 3年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科（令和6年度）

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科（全日制課程）
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科（全日制課程）
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数（令和6年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	284
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	81
	実践保育学科	61
	介護福祉学科	136
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	727
東大阪大学柏原高等学校	普通科	499
東大阪大学附属幼稚園		268
合計		2,056

4) 役員の概要（令和7年4月1日現在）

(1) 役員 理事 7人、監事 2人（任期：令和7年7月3日【7-1-1 除く】）

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理 事	栗岡二三子
7-1-3	理 事	筒井 宣興
7-1-2	理 事	金治 延幸
7-1-3	理 事	別所諭貴夫
7-1-3	理 事	南方 孝一
7-1-1	理 事	中村 光男
8	監 事	中道 均
8	監 事	室井 博子

(2) 評議員 15人（任期：令和7年7月3日）

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	小林 康行
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	中村 光男
21-1-3	金治 延幸	21-1-1	永岡 由美
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要（令和6年5月1日現在）

	教 員		職 員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	13	3	16
東大阪大学	21	24	14	13	72
東大阪大学短期大学部	30	32	15	2	79
東大阪大学敬愛高等学校	46	16	5	7	74
東大阪大学柏原高等学校	48	8	11	10	77
東大阪大学附属幼稚園	20	4	5	3	32
合 計	165	84	63	38	350

2 財務の概要

1) 事業活動収支計算書（令和4年度から令和6年度）

（単位：千円）

（教育活動収入の部）	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学生生徒等納付金	1,363,499	1,372,140	1,402,731
手数料	25,228	27,669	27,922
寄付金	15,713	15,543	22,061
経常費等補助金	855,221	800,860	813,968
付随事業収入	113,867	98,401	118,739
雑収入	99,559	72,253	49,758
教育活動収入計	2,473,088	2,386,866	2,435,180
（教育活動支出の部）			
人件費	1,441,386	1,499,017	1,546,107
教育研究経費	908,044	914,229	948,685
管理経費	344,947	414,394	431,251
徴収不能額等	1,621	7,200	5,726
教育活動支出計	2,695,997	2,834,840	2,931,770
教育活動収支差額	△222,909	△447,974	△496,590
（教育活動外収入）			
受取利息・配当金	27,399	17,878	49,917
その他の教育活動外収入	-	-	-
教育活動外収入計	27,399	17,878	49,917
（教育活動外支出）			
借入金利息	22,555	21,825	21,121
その他の教育活動外支出	-	-	-
教育活動外支出計	22,555	21,825	21,121
教育活動外収支差額	4,843	△3,945	28,797
経常収支差額	△218,066	△451,920	△467,794
（特別収入）			
資産売却差額	6,850	20	987
その他の特別収入	3,666	61,026	3,325
特別収入計	10,516	61,046	4,313
（特別支出）			
資産処分差額	16,084	221	732
その他の特別支出	557	2,744	703

特別支出計	16,641	2,965	1,436
特別収支差額	△6,125	58,081	2,877
基本金組入前当年度収支差額	△224,191	△393,840	△464,917
基本金組入額合計	△162,714	△364,560	△174,460
当年度収支差額	△386,906	△758,400	△639,377
前年度繰越収支差額	△6,547,481	△5,789,081	△5,149,704
基本金取崩額	-	-	-
翌年度繰越収支差額	△6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
事業活動収入計	2,511,002	2,465,790	2,489,409
事業活動支出計	2,735,193	2,859,630	2,954,326

2) 貸借対照表（令和4年度から令和6年度）

（単位：千円）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
固定資産	11,607,370	12,224,520	12,448,173
流動資産	567,214	339,033	649,742
資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916
固定負債	1,631,812	1,784,285	1,929,623
流動負債	685,832	698,137	693,322
負債の部合計	2,317,644	2,482,422	2,622,944
基本金の部合計	16,791,327	16,628,613	16,264,052
繰越収支差額の部合計	△6,934,387	△6,547,481	△5,789,081
負債及び純資産の部合計	12,174,584	12,563,553	13,097,916

3) 財務比率（令和4年度から令和6年度）

（単位：%）

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
人件費比率	57.6	62.3	62.2
人件費依存率	105.7	109.2	110.2
教育研究経費比率	36.3	38.0	38.2
事業活動収支差額比率	△8.9	△16.0	△18.7

2 令和6年度事業計画における進捗状況等

令和6年度は、プロジェクトチーム（PT）を中心に改革を進め、まず生徒や保護者の満足度を高めていくことを目標とした。『未来へチャレンジ、柏高から』をキャッチコピーに、「自分らしさを発揮し、挑戦し続ける生徒」を目指す生徒像とした。

1. 教育内容の充実

(1)ICTを活用した授業内容の充実（柏高の学び）

- ・全学年一人一台のiPadを活用して、個別最適な学びを目指した。
- ・知識の定着に特化した学習アプリ「Monoxer」をすべての授業で活用すると共に、課題に出したり定期テストに出題したり、また観点別評価に入れたりして、生徒一人当たりの年間平均取組み問題数1万回以上を目標としたが、令和6年度は約1万2千回となり目標を達成することができた。この値は全国でもトップレベルになる。教科別学習回数では、社会（82,701回）、国語（63,518回）、理科（54,726回）が多かった。全生徒で取り組み回数の多い上位3名を全校集会で表彰した。令和7年度は平均1万2千回以上を目標とする。
- ・受験対策として導入した学習アプリ「スタディサプリ」を活用し、生徒の習熟度に応じた課題を配信した。動画の視聴回数は一番多い生徒で99講座（19時間2分）を視聴したが、全国と比較するとまだまだ視聴者数は少ないので、活用頻度を高めたい。
- ・年2回の到達度テストを実施し、その分析により「スタディサプリ」を活用して苦手克服を図った。1年生の平均正答率は約40%、2年生の平均正答率は約45%であった。来年度は更に5%ずつアップさせたい。各学年で一番正答率の高かった生徒及び伸び率の一番高かった生徒を全校集会で表彰した。
- ・アドバンストコースでは、さらに英語学習アプリ「スタサプ ENGLISH」を活用し、リスニング力、スピーキング力を高めた。
- ・ペア学習、グループ学習を活用し、個別最適な学びだけでなく、協働的な学びも追求した。クラスによりばらつきがあるので、全てのクラスで実施できるようにしていきたい。
- ・「キーノート」等プレゼンテーションアプリを活用して、自分の考えをまとめ、発表・表現する力を育成した。教科や探究の時間に年1回以上取り組むことを目標としたが、来年度は全ての教科で実施したい。
- ・自尊感情を育て、学ぶ楽しさや達成感が実感できる授業を目指した。しかし今年度は、すべての教員の授業力を上げるための研究授業や公開授業を実施することができなかったため、令和7年度には1学期と2学期にそれぞれ1回以上実施することを目標とする。

(2)各コースの教育内容の充実

各コースで行事日を設け、コースの特色を極めて教育内容を充実させることを目標とした。またコース毎の教育活動を、ホームページやInstagram等で発信した。

① キャリアアップコース

- ・年5回（計画では6回）コース独自の行事日を設け、進路実現の選択肢を増やす体験学習を実施した。幅広い分野で体験学習ができたので生徒の満足度も高かった。また進路

を考えるきっかけとなったので、保護者の評価も高かった。

5/11（土）地元企業（ハート封筒）の職場見学

5/28（火）柏原市役所見学（大雨警報で中止）

6/15（土）VS Park セブンパーク天美（ICT 体験学習）

9/3（火）柏原病院による「がん教育」講演

9/21（土）東大阪市消防局防災学習センター体験学習

11/2（土）てんしば i:na、天王寺動物園 探究学習

- ・探究の時間（総合探究）を活用して、自分の興味のある企業調べと学校（大学・短大・専門学校）調べを実施した。また、自分の生き方を考えさせる講演会や、求人票の見方、コミュニケーションの取り方、模擬就職試験、面接の受け方、プレゼンテーションなどキャリア教育を充実させた。
- ・検定取得→漢検（3級3人、準2級1人）、英検（3級4人、準2級1人）、数検（3級1人、1次のみ1人、準2級1次のみ2人）、簿記検定（3級1人）
キャリアアップコース2年生の2人に1人が何かしらの検定に合格できた。
- ・キャリアアシストコースとともに、選択講座を充実させた。特に1年生では従来の週2コマから4コマ（平日3コマ、土曜1コマ）に増やし、調理や美術関係の講座は3コマ連続にして本格的に取り組める講座にした。また人気の高いeスポーツやiPad活用講座、文化研究講座を2コマとし、もう1コマをA講座として、3学年合同で検定（漢字・英語・数学・簿記）、だんじり、トレーニング、ビジネス等の講座を実施した。さらに、土曜日には興味関心に応じた総計50種類以上の多彩な講座の中からアンケートを取り、希望の多い講座を選択して実施した。

② キャリアアシストコース

- ・年5回コース独自の行事日を設け、以下のような取り組みを行った。
 - 1年・・・ハーベストの丘の体験学習、カップラーメンミュージアムの見学・体験、数学の学び直し学習
 - 2年・・・お弁当作り・コンテスト、八尾柏原ドライビングスクール見学、関西国際空港（修学旅行事前学習）
 - 3年・・・1分間スピーチ発表会、信貴山のどか村バーベキュー体験、面接練習各学年の取り組みはできたが、学年を超えてコースとしての取り組みが少なかったため、全学年で参加できる取り組みを増やしたい。
- ・アシストコース保護者交流会「柏カフェ」を1年生は年3回、2年生は年1回実施し、保護者同士の交流を図ることができた。
- ・キャリアアップコースと連携して選択授業を充実させた結果、自分のできることが増え、自信をつけさせることができた。
- ・スクールカウンセラーと連携し、生徒・保護者とのカウンセリングを計画的に実施することで、生徒・保護者のサポートを充実させることができた。
- ・3年生の進路は、進学14名（大学10名・短大1名・専門学校1名）、就職1名、職業訓練校3名で、全員の進路保障ができた。

③ キャリアスポーツコース

- ・「実践スポーツ」（週 4 時間）の時間は、以下のような内容で実施した。

スケートボード	全 8 回	AKAMARU パーク
ボウリング	全 6 回	ボウルアロー八尾
ボルダリング	全 6 回	テンオクロック BOULDERRING SPACE
ゴルフ	全 4 回	ゴルフ 4040
ダンス	全 5 回	NPO 法人カルティベイト
ダブルダッチ	全 5 回	日本ジャンプロープ連合（本校 OB 大西氏）
体幹・ストレッチ	全 2 回	CF FOOTBALL ACADEMY
スポーツ医学検定	全 8 回	スポーツ医学検定協会
柔道整復師に学ぶ	全 2 回	華鍼整骨院
普通救命講習	全 1 回	柏原羽曳野藤井寺消防組合
バドミントン	全 3 回	本校バドミントン部顧問
その他（フットサル・ニュースポーツ等）		

- ・「実践スポーツ」では、各分野の第一線で活躍されている専門家に依頼し、直接指導を受けることができた。また、校内では体験できない専用施設を利用して、より競技性の高い授業を行うことができた。
- ・実技は、1・2 年合同で習熟度別に行うことにより、各スポーツの技能を高めることができた。また異学年が一緒に行動することで、コースの団結力ができた。
- ・スポーツ医学検定 3 級を全員が受験し、1 人合格することができた。
- ・普通救命講習受講により、全員が認定書を取得することができ、生徒の自信につながった。
- ・活動風景を撮影しインスタグラム等にアップする予定だったが、配信回数が少なかった。来年度は配信回数を増やし、生徒・保護者に広く認知してもらえようとする。

④ アドバンストコース

- ・アントレプレナーシップ教育を実施し、リクルート社が主催する「高校生 Ring AWARD」に生徒全員で取り組ませた。残念ながら 3 年連続の選考通過とはならなかったが、令和 7 年度は、最終審査まで進み、全国放送でプレゼンできることを目標とする。
- ・英語では特に「スタサプ ENGLISH」を活用し、リスニング力、スピーキング力を高めた。また英検対策としても活用した。さらにネイティブスピーカーと会話できる「ネイティブキャンプ」を校内留学として年 3 回実施する計画を立てた。事前にテーマを決めて、そのテーマに沿った内容を「スタサプ ENGLISH」の英会話コンテンツの中から予習した結果、英語を使って表現する方法を学び、楽しく英語に触れることができた。しかし、インターネット状況が不安定で、何回かトライしたがうまくつながらず途中で断念した。インターネット環境を整備し、再度挑戦したい。
- ・英単語・熟語の早朝テストを、アドバンストコースの全学年で継続して取り組むことができた。次年度は、1,000 語習得を目指す。
- ・2 年生は、新しい取り組みとして「全国 E フェスタ」（配信課題の取り組み回数の全国ランキング大会）に参加した。次年度は年 2 回参加予定。
- ・国際クラスとの合同授業を実施し、留学生と交流することで多文化共生教育を推進し、

国際感覚を高めることができた。

⑤ アスリートコース

- ・スポーツに特化したカリキュラムで、トップアスリートを目指した。
- ・今年度も、バドミントン部、陸上競技部、ゴルフ部、柔道部、空手道部、日本拳法部など多くのクラブが全国大会出場を果たした。
- ・今年度コースとしての取り組みができなかったため、来年度は栄養管理の講義やスポーツ選手を招いての講演会、地域清掃などコースとして取り組みたい。

⑥ 調理コース

- ・3年生4人中3人が調理関係に就職でき、1人が栄養関係に進学した。
- ・地元飲食店や有名ホテルにも協力いただき、インターンシップを実施することができた。またその振り返りとしてプレゼンテーションに取り組み、表現力を身につけることができた。
- ・生徒向けに300個のクレープ販売を行ったり、教員向けのお弁当販売を実施したり、ソライロキッチンでオリジナルジュースを販売したりして、実演販売や接客業を学ぶことができた。
- ・ふれあいウォークで豚汁を提供し、食べた方々から感想をもらったことで達成感を得ることができた。また地域の方々と交流することができた。
- ・東大阪大学の国際カレー大会に参加したり、花火大会でオリジナルジュースを販売したり、柏原市役所と連携してキッチンカー体験をしたりして経験を積むことができた。

⑦ 美術コース

- ・3年生は、卒業制作として「3年間の集大成」となる作品作りに挑戦し、VRChat内に美術館や家の室内ワールドを製作し、そこに自分たちのイラストやTwitterで依頼を受けて制作したMVを展示するなど、デジタルとアナログの枠を超えた表現を実現できた。
- ・インテックス大阪で開催された関西コミュニティ72に参加し、オリジナルの本やグッズを製作・販売するなど実戦的な経験を積むことができた。
- ・3年生3名の進路は、大阪芸術大学キャラクター造形科、東大阪大学短期大学部実践食物学科、大阪アニメ・声優&スポーツ専門学校へ進学した。
- ・2年生は、大阪総合デザイン専門学校の協力を得て、オリジナル缶バッジを製作した。また小物やシールなども制作し、柏高祭で販売することで大きな達成感を得ることができた。

(3) 生徒会活動の充実

- ・生徒会役員を2名増やして6人体制にし、より充実した生徒会活動を目指した。
- ・「わくわくモーニング」や「カシゼリヤ」など、生徒会の取り組みを1年通して継続することができた。
- ・「柏高祭」の企画運営を充実させ、昨年よりスムーズに運営することができた。また新たに1日目にクイズ大会を入れ、新しい取り組みができた。
- ・体育大会を生徒会と体育科が共催する「体育祭」とし、生徒同士のつながりができたり、生徒がより楽しめるものにした。
- ・敬愛高校との連携を進めたかったが、具体案を出すことができず実現できなかったため、

来年度は必ず実現したい。

- ・来年度は生徒会を中心に校則や制服の見直しに取り組みたい。

2. 国際交流クラスの充実

(1)国際交流センターや敬愛高校との連携を強化し、留学生が安定した学校生活・寮生活ができることを目指した。

- ・国際交流センターや寮監と連携し、留学生が安心して生活できるようにした。
- ・敬愛高校と連携を深め、寮での決まりや帰国日の設定など、不満が出ないよう連絡調整した。
- ・関係者で定期的に現場会議を実施して、情報交換や日々の指導方針を決めることができた。
- ・学年や生徒指導と連携して日々の生活指導を日本人生徒と同じようにできた。
- ・生徒指導面や寮生活になじめず退学した生徒もいたので、しっかり生活をサポートし退学者を減らしたい。

(2)有名大学進学に向けた学力保障

- ・進路先が決定する時期が遅くなったが、最終的に帰国した1名を除いて全員進路先を決定することができた。
- ・主な進路先は、法政大学、専修大学、東海大学4名、日本大学2名、桃山学院大学、大阪経済法科大学3名、札幌大学、東大阪大学 等
- ・全員が日本語能力試験 N2 以上を取得できることを目指したが、N1 合格9名、N2 合格12名、N3 合格4名で N2 以上の取得率は 25.3%に留まった。
- ・日本語の授業では効果的に指導できるように、習熟度別に1年生は2分割、2・3年生は合同で3分割して指導した。
- ・日本語講師が全員非常勤講師のため、系統立てた指導ができるように全員集まっでの打ち合わせを数回行った。

(3)日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進

- ・生徒会が主催して日本人と留学生が交流できる取り組み「カシゼリヤ」を放課後に実施することができた。
- ・アドバンストコースとの合同授業を3学年で5教科設けることができた。

3. 地域との連携

- ・地域にしっかり根差した学校を目指し、柏高祭や花火大会等、地域の方々に来てもらえる機会をつくった。また敬愛感謝の日に地域に出て清掃活動を行った。「だんじり」を活用したりして地域との交流を深めた。
- ・「柏原高校ふれあいウォーク」を通して市と連携し、地元住民と交流を図ることができた。
- ・キャリアアップコースの生徒が地元企業を見学したり、調理コースの生徒が地元飲食店でインターンシップをさせてもらったりして地域とのつながりを深めた。柏原市のフェスティバルに数クラブが参加協力する予定だったが、大雨のために

中止になった。

4. 入試広報部の充実と効果的な広報活動

(1)入試広報部のさらなる改革

- ・校務分掌を改訂し多くの教職員が入試広報部に関わるようにして、全職員で生徒募集をする意識をさらに高めた。

(2)入試広報活動の工夫

- ・今年度は、関西の高校初の「メタバース」を活用した広報活動に取り組んだ。各コースの説明やクラブ紹介など動画も交え、見てもらった人からの評判は高かったが、中学校で使う iPad にはアプリを入れることができないことが分かったので、生徒個人に QR コードを配付するなど工夫が必要である。
- ・「メタバース」を活用して、6 月以降の火曜日・木曜日を中心にオンラインオープンスクールを開設したが、入口が分かりにくく参加者が少なかった。次年度は入口が分かりやすいように工夫すると共に、内容をグレードアップさせ、より多くの中学生・保護者に見てもらえるようにする。
- ・オープンスクールでは、1 回目は台風の影響で中止となったが、急遽インスタライブで全体会の一部をライブ配信することができた。この経験を次年度の取組に活かしたい。2 回目から 4 回目までの参加人数は 342 人で昨年度と比べ減少した。オープンスクールに来られた人の評価は高いので、まずオープンスクールに来てもらう工夫が必要である。
- ・今年度は入試対策講座をなくし、入試対策を含めた入試説明会を 2 回実施した。参加者は 2 回で 310 人であった。昨年度と比べ入試説明会の参加数は増えたが、入試対策講座まで含めると、トータルでは参加者が減少した。
- ・八尾市・柏原市・藤井寺市等地元中学校へは男子全員にチラシを配ったが、メタバースの QR コードを配ったり出前授業で地元中学校を回るなど、さらに特化した生徒募集の在り方を検討しなければならない。
- ・今年度は塾訪問専門の担当を置き、塾のデータ化を進めると共に、塾生を推薦してくれる塾には訪問回数を増やして特に丁寧に対応した。

(3)ホームページ・SNS 中心の広報活動

- ・ホームページをリニューアルし、画面を明るくしたりメタバースやInstagramへ移行しやすくしたりして、柏原高校の楽しさがより伝わるように工夫した。
- ・公式Instagramをつくり、学校行事や生徒の様子をタイムリーに配信した。令和 6 年度のフォロワー数が 1286 だったので、7 年度は 2500 を目標とする。
- ・年度途中で公式 LINE も設置することができた。令和 6 年度の友だち追加数は 86 だったので、7 年度は友だち追加数 200 を目標とする。年間で配信の内容とスケジュールを作成し、毎月 1 回を基本にイベントのある時は追加して配信する。

5. 生活指導の徹底と生徒サポートの充実

(1)問題行動の未然防止

- ・挨拶、身だしなみ、遅刻、欠席等の「凡事徹底」を図ってきたが、指導案件が昨年度よ

り少し増加した。未然防止に努めたい。

- ・人権教育では「いじめ、ネットトラブル」、「いじめ自殺、僕はなぜ止められなかったのか」、「著名人のメッセージ（いじめられている君へ、いじめている君へ、いじめを見ている君へ）」、「人権劇（ミュージカル）いじめ STOP」等を教材に学習し、望ましい学級集団・学年集団の育成を目指した。

(2)迅速な対応と粘り強い指導

- ・問題事象への迅速な対応と外部関係機関との連携を目指した。
- ・「いじめアンケート」を1・2年生は年3回、3年生は年2回実施し、いじめに準ずる事象にスピーディーに対処できた。

(3)時代に対応した校則の見直し

- ・今年度、防寒着の規制緩和や進路決定者の自動車免許取得、イヤホンの持ち込み、土日祝日のクラブジャージや体操服登校などいくつかの校則の見直しを行った。今後生徒会と連携してさらに時代に対応した校則の見直しを進めていく。

(4)生徒サポートの充実

- ・気になる生徒(不登校、虐待、問題行動、障がい等)を全教職員で共有し、早期対応や適切な指導に活かすことができた。
- ・不登校傾向のある生徒は、修学委員会で早期に検討して対応した結果、留年や退学を防げた生徒が複数名いた。修学委員会9回、ケース会議3回実施。
- ・不登校傾向のある生徒やその保護者は積極的にスクールカウンセラーにつないだ。カウンセリング回数は以下の通り。
4月15件、5月23件、6月23件、9月17件、10月16件、11月19件、
1月17件、2月6件　合計136件
- ・令和6年度の転退学率は昨年度より少し増加してしまった。生徒に寄り添い丁寧にサポートすることで、転退学率を減少させたい。

6. 進路指導の充実と進学実績の向上

(1)進路行事について

- ・3年　就職勝道場、進路ガイダンス、2学期講演会（労働条件、金銭教育、租税教室、着こなし講座）
- ・2年　進路ガイダンス、進路別見学会、体験授業、就職体験会、適性検査、講演会、オープンキャンパス学習会、分野別研究ポスターセッション
- ・1年　適性診断、体験授業、講演会、職業体験

(2)就職について

- ・今年度も学校紹介の就職においては、大手企業から中小企業まで多様な就職状況で、内定率100%を継続することができた。
- ・就職32名（日本郵便、ロイヤルホテル、ダイハツ工業、トヨタカローラ南海、蓬萊、ALSOK近畿、三重工業、佐川急便、湯元館　等）
- ・公務員（自衛隊一般曹候補生）

(3)進学について

- ・大学進学 100 名（東大阪大 2、東大阪大短期大学部 3、同志社大、立命館大、関西大、近畿大 2、法政大、大阪商業大 5、四天王寺大 4、龍谷大、大阪体育大 3、 阪南大 3、大阪電気通信大 2、追手門学院大 3、神戸学院大 等）
- ・専門学校進学 25 名（大阪情報コンピュータ、大阪情報 IT クリエイター、大原簿記 2、大原簿記法律 2、森ノ宮医療学園、履正社スポーツ、大阪アニメ・声優&e スポーツ、ホンダテクニカルカレッジ、関西医療学園、 等）

3 財務の概要

別添 令和 6 年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照